令和7年度 山形県内 各水系流域治水協議会及び 各河川大規模氾濫時の減災対策協議会　合同協議会開催状況

国土交通省

- 令和７年１２月２５日（木）に山形県内（国・県・35市町村等）各水系流域治水協議会及び各河川大規模氾濫時の減災対策協議会を実施
- 「最上川・赤川流域における減災に係る取組」や「最上川・赤川流域の減災に係る次期取組方針(R8～R12)改定案について」意見交換を行った。
- また、令和７年１１月１９日第29回最上川水系流域委員会で審議された「気候変動を考慮した河川整備計画変更に向けた基本的な考え方について」も情報提供し、気候変動を考慮した河川整備計画変更について地域の機運の醸成も図られた。

開催日/実施概要

＜日　　時＞ 令和7年12月25日（木）14時～16時
＜場所/会議形式＞ 山形河川国道事務所2階大会議室
新庄河川事務所2階大会議室
酒田河川国道事務所2階大会議室
＜参　加　者＞ （WEB会議併用）

山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、新庄市、寒河江市、上山市、村山市、長井市、天童市、東根市、尾花沢市、南陽市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町、三川町、庄内町、遊佐町、最上広域市町村圏事務組合、西奥羽土地改良調査管理事務所、最上川下流左岸農業利水事業所、山形森林管理署、庄内森林管理署、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター、山形地方気象台、山形県、最上川中流土地改良区、上山市土地改良区、東北電力株式会社、山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所、最上川ダム統合管理事務所、月山ダム管理所、羽越河川国道事務所

【首長出席者】
（対面出席）新庄市 山科市長、山辺町 安達町長、河北町 森谷町長、金山町 佐藤町長、最上町 髙橋町長、舟形町 森町長、真室川町 新田町長、大蔵村 加藤村長、鮭川村 元木村長、戸沢村 加藤村長、川西町 茂木町長、庄内町 富樫町長、遊佐町 松永町長
（WEB出席）鶴岡市 佐藤市長、村山市 志布市長、尾花沢市 結城市長、南陽市 白岩市長、中山町 佐藤町長、西川町 菅野町長、大江町 松田町長、大石田町 庄司町長、三川町 阿部町長

＜協議会内容＞

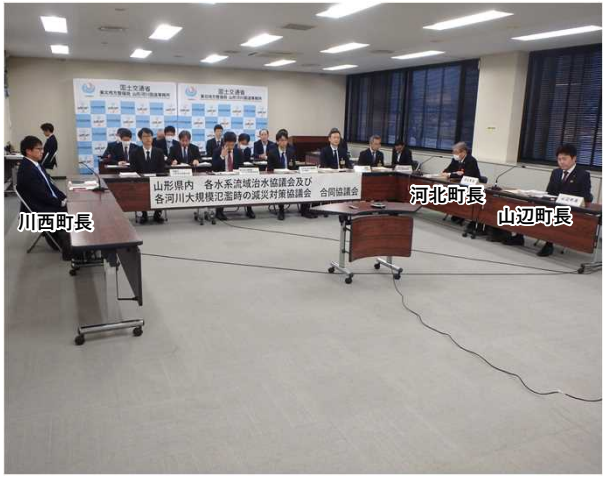
■ 議事

(1)規約の改定（流域治水協議会構成員の変更）
(2)石子沢川流域水害対策計画について
(3)最上川水系大旦川流域特定都市河川指定について
(4)最上川・赤川流域における減災に係る取組
(5)最上川・赤川流域の減災に係る次期取組方針(R8～R12)改定案について

■ 情報提供

(1)気候変動を考慮した最上川水系河川整備計画（大臣管理区間）への改定に向けた基本的な考え方について
(2)最上川水系緊急治水対策プロジェクト進捗状況（ハード・ソフト）について

会場写真



山形河川国道事務所大会議室



新庄河川事務所大会議室



酒田河川国道事務所大会議室



WEB参加者

令和7年度 山形県内 各水系流域治水協議会及び 各河川大規模氾濫時の減災対策協議会　合同協議会開催状況

国土交通省

首長からの意見

鶴岡市長



昨年の洪水について、県管理河川の京田川流域で氾濫があったが対応について感謝。市内を流れる赤川については、月山ダムの流量調節、現在進めている河道掘削、支障木の伐採も引き続きお願いしたい。

新庄市長



国・県における、最上川の緊急治水対策プロジェクトの取組について感謝。一方、最上川の支川の整備はまだ必要と考えており、流域治水という考えを前提に、それらの取組を一緒になって進めていきたい。

村山市長



山形県より、大旦川における「特定都市河川の指定」について、令和8年3月に予定されていると説明があったが、これについては予定通り進むよう、対応をお願いをしたい。

尾花沢市長



市では、令和3年より新たに23の河川が洪水浸水想定区域に指定、令和6年度、対象地区長と指定エリアを確認し、現在、ハザードマップや指定避難所の見直しをしている。

南陽市長



市ではハザードマップの更新作業を進めている。
小さな取組を積み重ね、浸水を少しでも防げるように関係者と協力し取り組んでいく。

山辺町長



「自助･共助･公助」の三本の柱が大切。
また、これからは共助が重要と考えており、住民の理解を得て一緒に取り組んでいくことが必要。

中山町長



減災対策について、子供たちを含めた町民全員への意識付けを行って、情報を迅速に出すことを心がけている。当町では公共施設の再配置を検討し、コンパクトシティを目指している。

河北町長



緊急治水対策プロジェクトについて、尽力いただき感謝。
河川整備の進展に伴い、町としては排水施設の整備等の取組を計画的に進めていく。

西川町長



寒河江ダム等のおかげで、西川町は安心・安全をご提供頂いており感謝。
町内全ての河川が浸水想定区域指定され、町では来年ハザードマップの改定を行っていきたい。

大江町長



最上川および月布川の治水対策について感謝。
百目木地区は、家屋の移転もだいぶ進んだ。引き続き町も一体となって百目木地区の堤防整備に取り組んでいきたい。

大石田町長



緊急治水対策プロジェクトにおいて、築堤工事や各地区の工事が順調に進捗しており感謝。町は内外水両方に備える必要があり、流域治水は不可欠。町内小学校3校で防災教育実施し、マイ・タイムラインを普及促進している。

金山町長



昨年度より防災情報を搭載したタブレット端末を町で配付した。今後はこれが円滑な避難行動、そして町民の安全に大きく結びつくものと考えております。

最上町長



流木や土砂災害への対策も含め、治山・治水・砂防の一体的な対応が必要。町としてもお願いするだけではなく、自らの役割をしっかり果たしていく。

舟形町長



町では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、独自に雨量計を3か所に設置した。町としても観測データを蓄積し、住民の避難誘導をより迅速に行える体制を整備していく。

真室川町長



世帯数が一桁の地区がかなり増えている。少人数の地区で、自主防災組織による「共助」の体制が維持できるのかという点が、今後非常に大きな課題と考えている。

大蔵村長



今後、村では災害が起きた場合のタイムライン(防災行動計画)の見直し、ハザードマップの改訂、排水ポンプ車購入を予定。また、役場庁舎は来年度完成するため、災害拠点として活用する。

鮭川村長



築堤整備が進んだことにより、一定の安心感を持っている。一方で、河川の氾濫だけでなく、山際や急傾斜地での土砂災害も発生しているため、そちらへの対応も重要であると考えている。

戸沢村長



最上川の河道掘削、樹木伐採等に感謝。昨年の災害時、避難されない高齢者が沢山いたことが反省点。引き続き職員による防災の出前講座で住民の意識付けを継続していく。

川西町長



令和4年に一斉情報配信システムを導入し、メールやSNS、戸別受信機や防災無線などを使って情報発信している。また、昨年度排水ポンプを2機導入し速やかに排水活動に取り組めるようにしている。

三川町長



昨年7月の大雨で、町内は内水被害が発生したが、藤島川の2箇所に排水機場整備頂いたことで被害が軽減したと考えており感謝。水防団との連携を高め、水防団の意識醸成を図りながら、ハードソフトの両面で激甚化する水害に備えたい。

庄内町長



町内には115の集落があるが、地区の避難については自主防災組織・消防団・民生委員等が連携し、避難のシミュレーション、訓練しておくことが重要と感じている。

遊佐町長



ペット飼育率の高まりを受け、避難の際に避難所において動物を連れた方とそうでない方の共存について課題と考えている。